

泌尿器科の かかりつけ 医

神楽岡泌尿器科 渋谷 秋彦 院長

前立腺肥大症の新しい手術治療について

現在は多種の良い薬剤があり、初期の前立腺肥大症であればほとんどの症状が改善します。膀胱出口の通過障害のせいでも、膀胱の緊張が強くなります（頻尿や尿失禁の症状が出てくる）が、こちらでも良い頻尿改善剤があり、適量を使えば改善が期待されます。

肥大の程度の強い大きな前立腺に対しては、刺激症状だけではなく、閉塞症状が出てきますので前立腺自体を小さくする薬剤が適応となります。こちらでも3割ほど前立腺が縮小し、排尿状態が改善する可能性があります。

前立腺肥大症で通院治療を受けている方が多くいらっしゃると思いますが、皆様の排尿異常（頻尿、残尿感、勢いの低下、尿失禁など）は、肥大した前立腺が膀胱の出口の尿道を圧迫しているのが原因です。これにより、初期には頻尿などの刺激症状、進行すると排尿しづらさという閉塞症状が出てきます。

前立腺は薬でなくなることはなく、その圧迫症状が薬物では十分にとれない方も多くいらっしゃいます。この肥大した前立腺が尿道の通過の妨げとなっている場合は、その通過障害を解除するための追加治療が必要となります。

従来、多くの泌尿器科施設で行われていたTURP（経尿道的前立腺切除術）ですが、高い効果を期待できるものの、入院が必要であったり出血を含めた多くの合併症やリスクがあるため、現在はほとんど行われていないのが現状です。

当院で行っている経尿道的レーザー前立腺核出術（HoLEP）は、ホルミウムヤグレーザーという最新機器を使った手術で、手術後の排尿は早

期に改善されます。前立腺を削るのでは

なく、皮（皮膜）から実（前立腺腫）をはがすように取り除くことで、少量の出血で手術後の苦痛も少なく済ませることが出来ます。当院では、この手術の安全性をいかして、患者さんの身体的、時間的制約を少なくするために、外来での日帰り手術を行っています。

前立腺肥大症による通過障害を放っておくと膀胱の血流が悪くなり、畜尿（オシッコをためる）と排尿（膀胱が収縮してオシッコを排出する）という伸び縮みの機能が損なわれる可能性があります。前立腺は手術できても、膀胱は作り直すことが出来ません。十分に尿をためられて、したいときに

ストレスなく尿を排出するという膀胱のすばらしい機能を温存するために、前立腺肥大症も早期発見、早期治療が必要と考えられます。

最近では各種レーザーや水蒸気治療、ステント留置など低侵襲の新しい治療法が出てきています。次回から、これらの新しい前立腺肥大症治療についてご紹介したいと思います。

当院では電話およびインターネットでの相談も受け付けております。受診をためらっていらっしゃいます方は、ぜひご利用ください。

01-66-90-8080
<http://www.kaguro.or.jp>

渋谷 秋彦 ●しげや あきひこ 1961年、旭川生まれ。1980年道立旭川東高等学校卒、1988年札幌医科大学卒業。札幌医科大学付属病院、砂川市立病院、北見赤十字病院勤務などを経て2003年11月に旭川市神楽岡に「神楽岡泌尿器科」開院。日本泌尿器科学会（専門医）、老年泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会所属。著書「気持ちいいオシッコのすすめ」（現代書林刊）。